株式会社レスター

2027年3月期 第2四半期（中間期）
決算補足説明資料

2026年11月13日

＜将来の見通しに関する注意事項＞
このプレゼンテーションに掲載されている当社の現在の計画、見通し、戦略は将来の業績に関する見通しであり、これらは現在入手可能な情報から得られた当社の判断に基づいております。実際の業績は、様々な外部要因、内部要因の変化により、これらの業績見通しとは異なる結果となる可能性があります。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、世界・日本経済の動向、急激な為替相場の変動並びに戦争・テロ活動、災害や伝染病の蔓延等があります。本資料・データの無断転用はご遠慮ください。

＜お問い合わせ先＞
レスター 経営管理室
E-mail：irpr@restargp.com

Agenda

1 2027年3月期 第2四半期　連結業績ハイライト …… P4

2 2027年3月期 連結業績予想（上方修正）及び配当予想（増配） …… P13

3 Company Profile …… P17

Agenda

1 2027年3月期 第2四半期　連結業績ハイライト …… P4

2 2027年3月期 連結業績予想（上方修正）及び配当予想（増配） …… P13

3 Company Profile …… P17

業績ハイライト

売上高

401,156百万円

（前年同期 278,087百万円）

前年同期比 **44.3%増**

計画進捗率 今回予想 **51.4%**

TOPICS

- 継続的に取り組んできた**車載・産業機器向けが堅調**に推移（↑）
- 生成AI用などの**データセンター向け需要の拡大に伴う一部商材の需給ひっ迫による市場価格の上昇**も業績に寄与（↑）

営業利益

19,064百万円

（前年同期 4,910百万円）

前年同期比 **288.2%増**

営業利益率 **4.8%**

計画進捗率 今回予想 **60.5%**

TOPICS

- **一部の商材の継続的な市場価格上昇**や期初から**円安傾向**が続いたことに伴い、売上総利益が増加（↑）
- **豊富なラインカードを活かしたクロスセル**や**海外におけるビジネス**も好調に推移（↑）
- 売上高が成長する中でも**販売管理費のコントロール**を行い、販売管理費比率として前年同期比で**1.8ポイント低減**（↑）

親会社株主に帰属する中間純利益

9,546百万円

（前年同期 1,676百万円）

前年同期比 **469.4%増**

純利益率 **2.4%**

計画進捗率 今回予想 **63.6%**

TOPICS

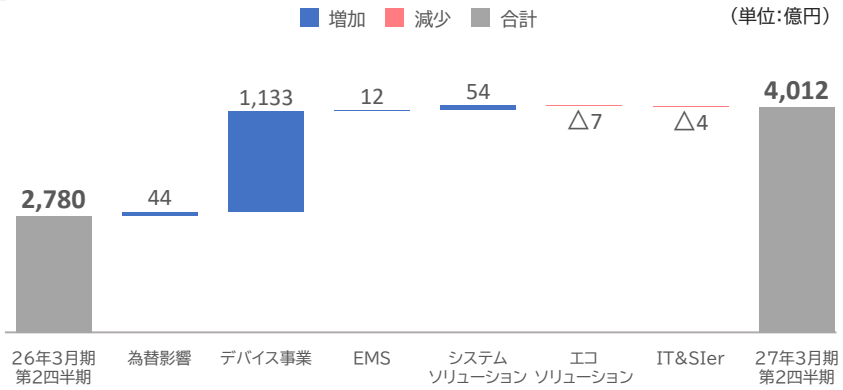
- **営業利益の増益**により増益（↑）
- 企業価値向上に向けた**事業ポートフォリオの見直し**を推進しており、その一環として、経営資源の選択と集中の観点から**植物工場事業の売却・撤退を含めた抜本的な改革**を進めており、植物工場事業における構造改革のスキームや今後の関係者との協議により変動する要素は残すものの、現段階で想定されるスキームの蓋然性を総合的に勘案し、合理的に見込まれる**特別損失を計上**（↓）

2027年3月期第2四半期累計連結業績

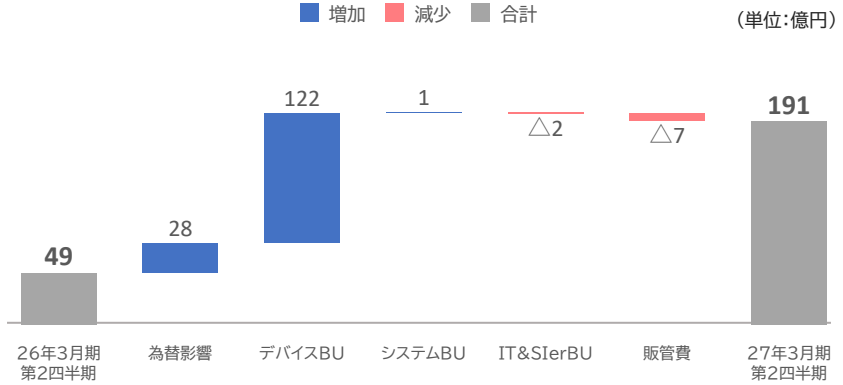
（単位：百万円）	2026年3月期 第2四半期		2027年3月期 第2四半期		前年同期比	
	金額	売上比	金額	売上比	増減額	増減率
売上高	278,087	―	**401,156**	―	123,068	44.3%
売上総利益	23,092	8.3%	**38,024**	**9.5%**	14,931	64.7%
販売管理費	18,181	6.5%	**18,959**	**4.7%**	777	4.3%
営業利益	4,910	1.8%	**19,064**	**4.8%**	14,153	288.2%
経常利益	3,107	1.1%	**16,672**	**4.2%**	13,565	436.6%
親会社株主に帰属する中間純利益	1,676	0.6%	**9,546**	**2.4%**	7,869	469.4%

増減要因

売上高



営業利益



TOPICS(売上高)

デバイス事業： 継続的に取り組んできた車載・産業機器向けが堅調に推移（↑）

生成AI用などのデータセンター向け需要の拡大に伴う一部商材の需給ひっ迫による市場価格の上昇も業績に寄与（↑）

TOPICS(営業利益)

デバイス事業： 一部の商材の継続的な市場価格上昇や、期初からの円安傾向に伴う売上総利益の増加（↑）

豊富なラインカードを活かしたクロスセルによる増収効果に伴う増益（↑）

エコソリューション事業： エネルギー価格の高騰などに伴う電力の仕入価格の上昇（↓）

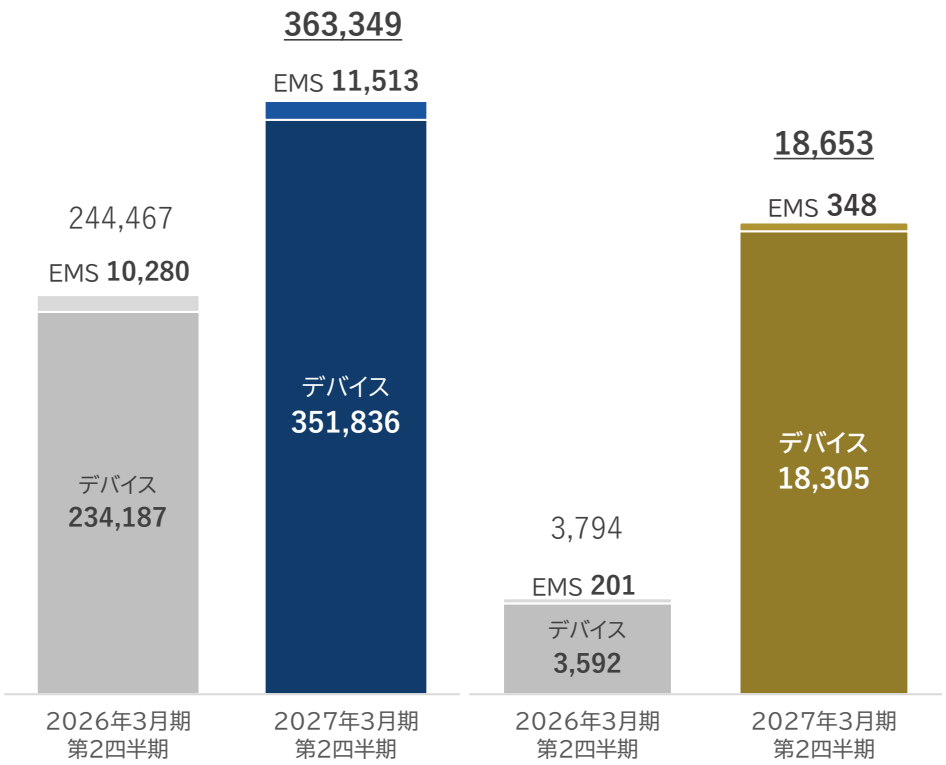
全社： 売上高が成長する中でも販売管理費のコントロールを行い、販売管理費比率は前年同期比で1.8ポイント低減（↑）

為替レート 26年3月期2Q：146.03円/$ ▶ 27年3月期2Q：159.37円/$

デバイスビジネスユニット

（単位：百万円）

売上高



セグメント利益

EMS

- 後継機種への切り替え時期が後ろ倒しとなる中、従来機種の生産が回復したことにより増収

デバイス

- 継続的に取り組んできた車載・産業機器向けが堅調に推移
- 生成AI用などのデータセンター向け需要の拡大に伴う一部商材の需給ひっ迫による市場価格の上昇も業績に寄与

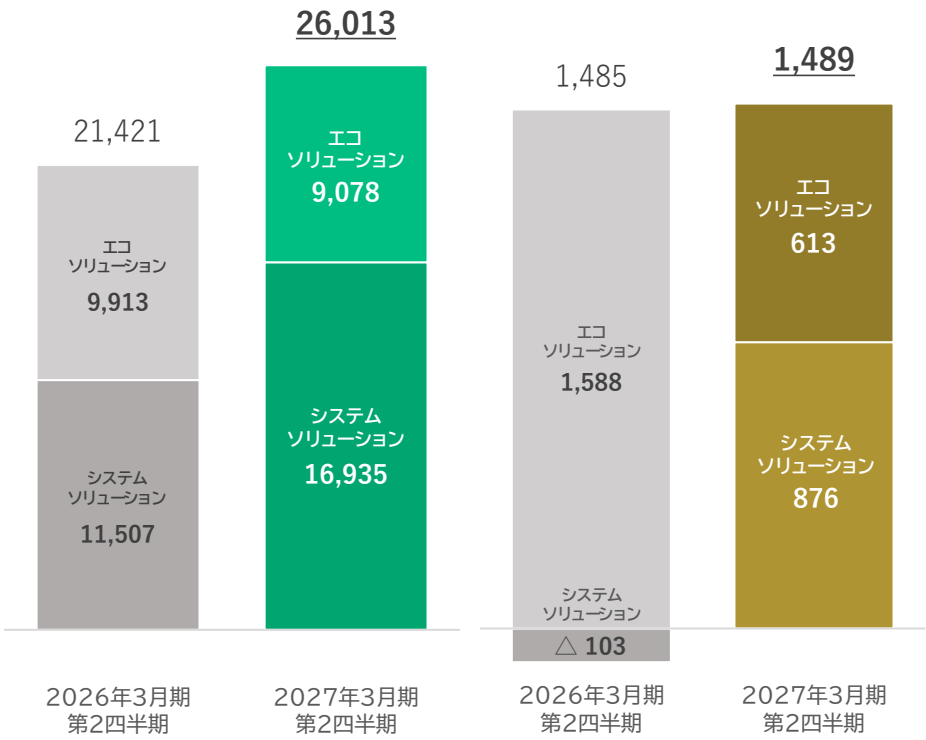
セグメント利益

- デバイス事業における一部の商材の継続的な市場価格上昇や、期初から円安傾向が続いたことに伴う売上総利益の増加による増益
- 豊富なラインカードを活かしたクロスセルや、海外におけるビジネスも好調に推移

システムビジネスユニット

（単位：百万円）

売上高



セグメント利益

エコソリューション

- 系統用蓄電池の稼働による売上貢献があったものの、太陽光発電における一部地域での電力出力抑制及び日照不足の影響や、新電力分野での競争激化もあり減収

システムソリューション

- M&Aにより獲得したラインカードを活用したサーバー及び関連商材の好調な販売や、一部商材の継続的な市場価格上昇により増収
- 医療分野における映像システム及び企業向けIT機器をはじめとした大型案件受注や、大型オフィス移転案件の獲得も寄与

セグメント利益

- エネルギー価格の高騰などに伴う電力の仕入価格の上昇によりエコソリューション事業は減益となったものの、システムソリューション事業の増収により前年並み

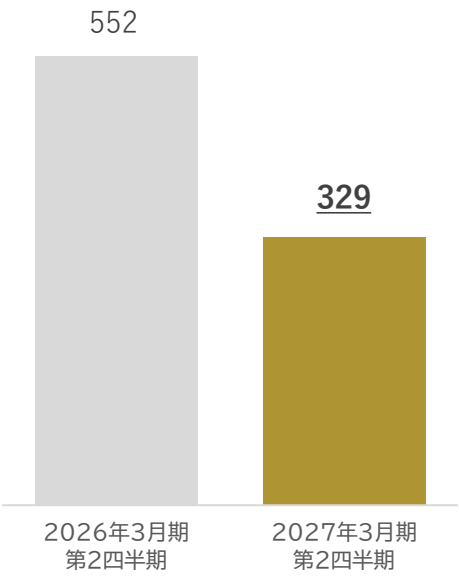
IT＆SIerビジネスユニット

（単位：百万円）

売上高



セグメント利益



IT&SIer

- AWS（Amazon Web Services）などのクラウド構築・運用支援やAI活用ソリューション、ERP運用支援の手堅い推移に加え、新モデルや官公庁向けPCの出荷などが売上高に貢献
- 一方、EV開発の計画見直しに伴う案件の縮小があったほか、前年同期の大型案件効果の剥落や一部商材の納入遅延などもあり減収

セグメント利益

- 前年同期における大型高収益案件の剥落、メモリーやCPUなどの主要部材価格高騰に対する価格転嫁の時期ズレによる売上原価率の上昇などにより減益

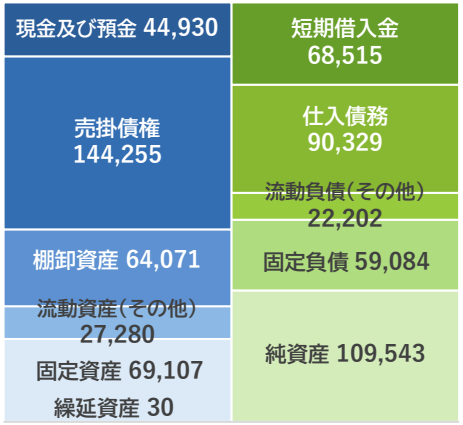
引き続き、当社グループの顧客基盤の活用によるビジネス領域の拡大を図るとともに、更なるデバイスBU、システムBUとのシナジー創出に向けて取り組む

連結貸借対照表

（単位:百万円）

2026年3月末

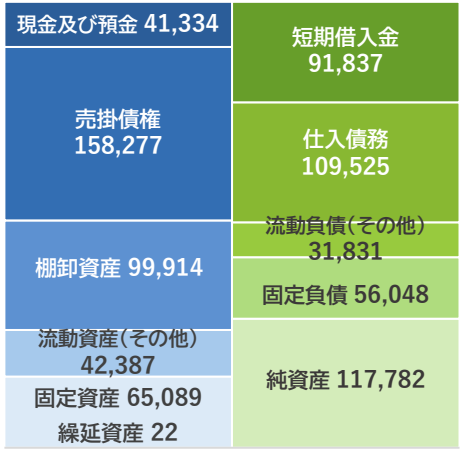
349,674



（単位:百万円）

2026年9月末

407,024



（単位:百万円）

主な増減要因

資産の部	
流動資産	棚卸資産 ＋35,842、売掛債権 ＋14,021
固定資産	繰延税金資産 △2,178

負債・純資産の部	
流動負債	短期借入金 ＋23,321、仕入債務 ＋19,195
固定負債	－
純資産	利益剰余金 ＋7,634 為替換算調整勘定 ＋339

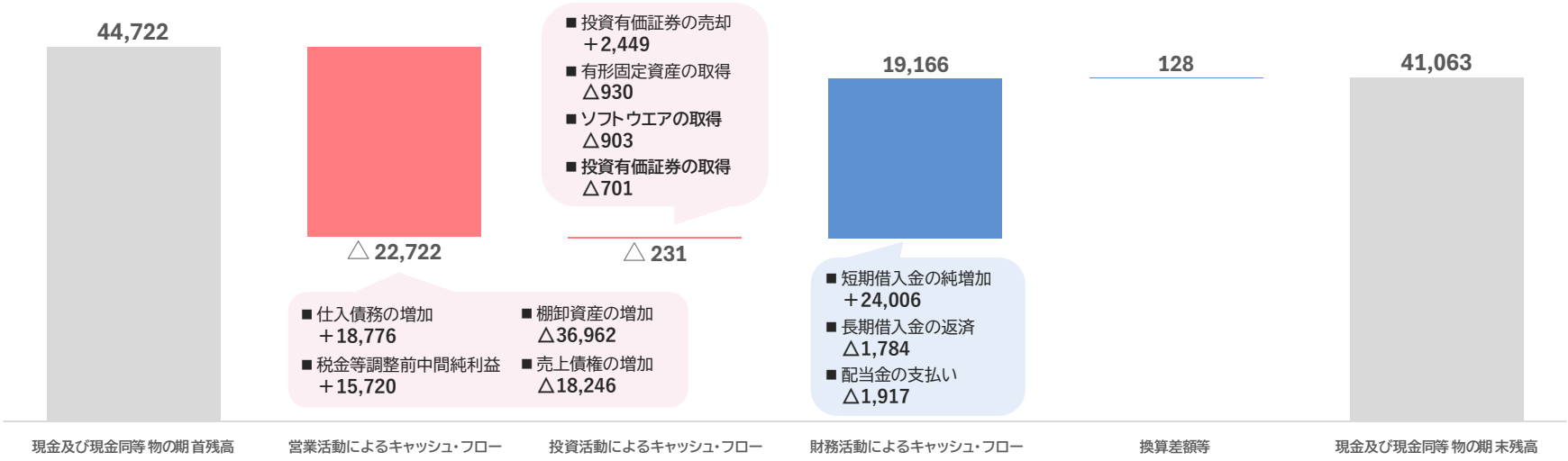
	26年3月末	26年9月末
自己資本比率*1	26.6%（28.1%）	24.9%（26.1%）
ネットD/Eレシオ*2	0.7倍	0.9倍
1株当たり純資産(円)	3,310.57	3,600.72

*1（）内の数字は、ハイブリッドローン（劣後特約付きローン）を加味した格付上の数値（2024年8月に調達したハイブリッドローン（劣後特約付きローン）100億円については格付上の資本性50%を考慮して計算）

*2ネットD/Eレシオ＝（リース債務を除く有利子負債－現金及び預金）÷自己資本 ➔安定的に1.2倍を下回る水準を維持

連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）	2026年3月期 第2四半期	2027年3月期 第2四半期	増減額
現金及び現金同等物の期首残高	**44,283**	**44,722**	**438**
■ 営業活動によるキャッシュ・フロー	9,814	△22,722	△32,536
■ 投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,742	△231	1,511
■ 財務活動によるキャッシュ・フロー	△8,780	19,166	27,947
■ 換算差額等	576	128	△448
現金及び現金同等物の期末残高	**44,151**	**41,063**	**△3,087**



Agenda

1 2027年3月期 第2四半期　連結業績ハイライト …… P4

2 2027年3月期 連結業績予想（上方修正）及び配当予想（増配） …… P13

3 Company Profile …… P17

2027年3月期通期業績予想（上方修正）

（単位：百万円）	2026年3月期 通期実績	2027年3月期 通期予想		前回予想比	
	金額	前回発表（26年8月7日開示）	今回発表（26年11月13日開示）	増減額	増減率
売上高	630,905	750,000	**780,000**	30,000	4.0%
営業利益	16,739	26,500	**31,500**	5,000	18.9%
経常利益	13,762	21,000	**25,500**	4,500	21.4%
親会社株主に帰属する当期純利益	7,691	13,500	**15,000**	1,500	11.1%
一株当たり当期純利益（円）	273.56	480.12	**533.47**	53.35	―

【TOPICS】

- ▶ 第1四半期から引き続き、当社グループが継続的に取り組んできた車載・産業機器向けは堅調に推移、安定的な事業成長は下期以降も継続していくものと予想
- ▶ 半導体市況は今後の需給動向により変動することから、単価動向が再び活発化した局面においては追加的な収益機会を創出しうるものと捉える
- ▶ 今後、①欧米・インド・アジアを中心としたグローバル展開の加速、②新規M&A・アライアンスによるラインカードのさらなる拡充、③エンジニアリング力の強化によるソリューション提供力の向上、④AI/IT投資による業務高度化・効率化を重点施策として推進
- ▶ エコソリューション事業の新電力分野においては、地政学リスクに伴うエネルギー価格高騰リスクを下期の不確実要因として織り込む

本件に関する開示資料はこちら＞https://pdf.irpocket.com/C3156/xoA3/Laiu/lj0R/MyuM.pdf

ビジネスユニット及び事業別業績予想

（単位：百万円）		2026年3月期 通期実績	2027年3月期 通期予想		前回予想比	
		金額	前回発表（26年8月7日開示）	今回発表（26年11月13日開示）	増減額	増減率
売上高	**デバイスBU**	**558,206**	**664,000**	**691,000**	27,000	4.1%
	デバイス	536,149	644,000	670,000	26,000	4.0%
	EMS	22,057	20,000	21,000	1,000	5.0%
	システムBU	**48,860**	**61,000**	**64,000**	3,000	4.9%
	システムソリューション	31,493	41,400	43,000	1,600	3.9%
	エコソリューション	17,367	19,600	21,000	1,400	7.1%
	IT&SIerBU	**23,837**	**25,000**	**25,000**	–	–
	連結	**630,905**	**750,000**	**780,000**	30,000	4.0%
セグメント利益	**デバイスBU**	**14,700**	**23,750**	**30,000**	6,250	26.3%
	デバイス	14,205	23,400	29,800	6,400	27.4%
	EMS	495	350	200	△150	△42.9%
	システムBU	**3,164**	**3,850**	**2,700**	△1,150	△29.9%
	システムソリューション	1,222	2,000	2,400	400	20.0%
	エコソリューション	1,942	1,850	300	△1,550	△83.8%
	IT&SIerBU	**1,219**	**1,300**	**1,300**	–	–
	全社・調整	△2,345	△2,400	△2,500	△100	–
	連結	**16,739**	**26,500**	**31,500**	5,000	18.9%

*2027年3月期より、従来「IT＆SIerBU」に計上していた当社の連結子会社である株式会社プリバテックの事業を「デバイスBU」にて計上しており、2026年3月期 通期実績及び2027年3月期 通期見通しについてはそれぞれ組替後の数値で記載

株主還元方針及び配当予想（増配）

株主還元方針

■ 2027年3月期を最終年度とする中期経営計画の期間の基本方針

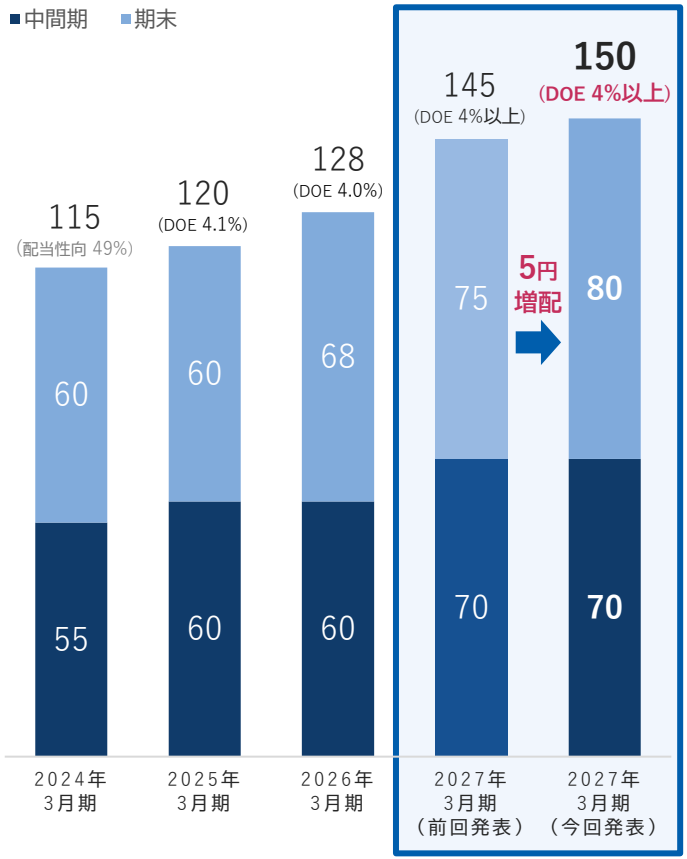
- 安定的な株主還元の充実、成長領域への積極的な投資と財務健全性のバランスを考慮
- 連結株主資本配当率（DOE*）4%以上
- 安定的且つ継続的に増配の実施
- 余剰資金については機動的な自社株買い

*DOE（Dividend on Equity）：株主資本配当率 ＝ 配当額÷株主資本 ＝ 配当利回×PBR
株主資本をベースとするため、配当性向に比べて、利益のブレに対する影響が少なく、安定的な配当となります。（2025年3月期より指標を配当性向からDOEへ変更）
当社は、株主の皆様に安心して長期保有いただけるよう、DOEを重要な指標として捉えて、株主還元を行ってまいります。

配当予想	2026年3月期	2027年3月期	
	金額	前回発表（26年8月7日開示）	今回発表（26年11月13日開示）
中間期末	60円	70円	70円
期末	68円	75円	80円
合計	128円	**145円**	**150円**

1株当たり配当金

（単位：円）



Agenda

1 2027年3月期 第2四半期　連結業績ハイライト …… P4

2 2027年3月期 連結業績予想（上方修正）及び配当予想（増配） …… P13

3 Company Profile …… P17

レスターグループ　経営理念

Mission

情報と技術で、新しい価値、サービスを創造・提供し、
社会の発展に貢献します

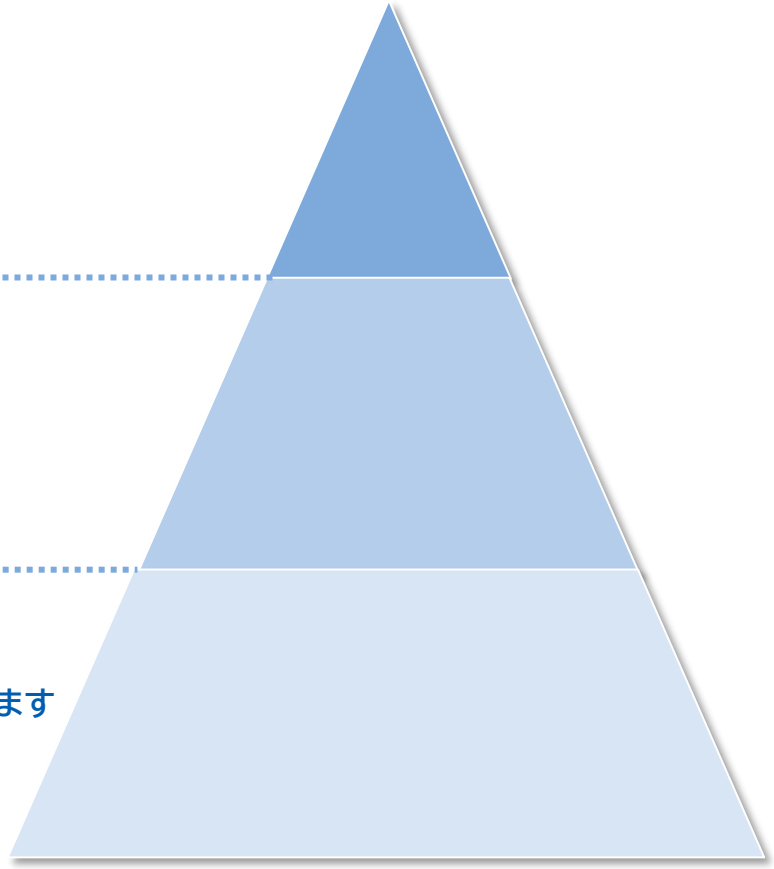
Vision

あらゆるニーズに対応できる
「エレクトロニクスの情報プラットフォーマー」を目指します

世界・社会貢献・共創と革新

Value

多様な考えを受け入れ、共創を通じて、新しい文化や価値を創り出します
常に高い目標を掲げて、革新的な発想と情熱で、挑戦し続けます
活躍の場を世界へと広げ、持続可能な社会の発展に貢献します



レスターグループ事業概要

会社概要



会社名	株式会社レスター（英文名：Restar Corporation）				
本社所在地	東京都港区港南二丁目10番9号 レスタービルディング			設立	2009年10月
代表取締役	会長CEO　今野 邦廣 社長COO　林 眞一	資本金	43.8億円	上場取引所	東京証券取引所　プライム市場
		従業員数	4,637人(2026年3月末時点)	証券コード	3156

事業紹介

デバイスBU*

デバイス事業

デバイス販売
エンジニアリング、信頼性試験
デザインサービス、ソリューション提供



調達
トレーディング
サービス



EMS事業

電子機器の
受託製造
サービス
（EMS）



システムBU

システムソリューション事業

電子機器の販売
設計/施工/保守



決済関連
NFC機器
開発/製造
輸入/販売



エコソリューション事業

再生可能
エネルギー発電



電力供給
売買仲介
コンサル
ティング

完全閉鎖型
植物工場



IT&SIer BU

ソフトウェア開発
産業用PC
設計/製造



*BU：ビジネスユニット

【2027年3月期中間決算説明会】

機関投資家及びアナリストの皆さま向けに
以下のとおり、本日開催を予定しております。

2026年11月13日（金）17：30-18：30

■個人投資家の皆さま向けには、後日、当日の決算説明会の動画を弊社ホームページにて公開を予定しております

■本件に関する機関投資家及びアナリストの皆さまからのお問い合わせ先

▶ 経営管理室／IR担当： irpr@restargp.com

エレクトロニクスに関する世界中の課題を解決する。

Restar

最新のIR資料等はこちらからご覧いただけます。